

第 11 号  
昭和 44 年 6 月

# 会 報

発行 北海道高等学校  
教育研究会 事務局

札幌市伏見町 1872 の 4  
札幌旭丘高等学校内  
電話 56-1221 番

## ご あ い さ つ

昭和 44 年度を迎えて、会員の皆さま方も夫々のお立場で、充実した毎日をすごしておられることと存じます。本会も創立以来第 7 年目を迎え着実に内容を豊かに固めていきたいと念願しています。丁度役員の改選期に当たっていましたが、大きな変化もなく、大部分の方々が再任されました。これは会員の皆さまが、本会の堅実な基礎固めを大きく期待されている証査とも受けとられ、私ども役員も、実質的な世話役であるとの使命感に徹して、この大切な 7 年目の仕事に献身いたしたい所存ですので、よろしくご支援をお願い申し上げます。

本年度として重点的なことも多くありますが、二、三を特記いたしましてご協力を得たく存じます。第一は、会員の確保と増員であります。ここ三、四年の皆さまのお骨折によつて 5,000 名を突破できたことは、全くご同慶の到りでございます。自主的な研究会としての実績がだんだんと認識されてきた結果であり、今後とも、こうした考え方に立つて各自の誇りを守りつつ、会員としてご研修下さるよう祈ります。

第二は、研究大会の内容であります。関係者のご協力によつて年々いろいろな工夫がなされていますが、他方参加会員のご熱意といおうか、ご要望といおうか、さまざまご希望がよせられています。何といつても本会の大事業であり、少しでもご満足のいくように図りたいというところから、参加料の意味で協力いただくことになりました。本会創立ごろとくらべ、運営内容が躍進的に変化してきた現在として、まことにやむを得ないことと、ご海容下さるようお願いいたします。

第三は、研究紀要の内容充実であります。登載ご希望が多くなり、各教科部会においても詮衡にご苦心というようにききます。教科に対する割当頁数も少しふやしましたが、量よりも質的に向上を図る年柄と存じますので、各教科部会でも充分にご検討をお願いします。なお原稿のバツ切については充分守つて下さい。例年係りとして苦しんでいる点であり、今年こそはバツ切厳守をお願いします。

第四は、本部と支部の密接な連絡であります。ここ一、二年本部と地区支部の連絡がつきはじめ血が通つてきたように存じます。地区支部長さんと地区事務担当者さんの一体不離のご努力による会員確保や負担金の取りまとめ、さらに地区内の教科別連絡者のご斡旋など、所属地区における各学校や先生方との連絡は大変なことと存じますが、本会の基礎となる大切なことですのでよろしくお願いいたします。さらに、本部と教科部会の連絡があります。これも、教科部会長さんと教科事務担当者さんの献身的なご工夫により、当該教科の会員の増強、研究発表の促進、研究紀要の奨励、教科部会研究会のすぐれた運営など、本部としてもできるだけサービスさせていただきながら、会員多数に利益を還元いたしたい願いで一杯でございます。

最近、各府県の高校教育研究会から刊行物を送つてきます。できることなら、全府県と刊行成果などを交流するのにもしたいものだと思つていますが如何でしょうか。そのためには北高教研の本部としても、あらためて禪をしめ直して、体制を確立せねばならないかと存じます。皆さま、本年度もよろしくご健勝ご研学を祈り上げます。

会長 長 瀬 米 蔵



本会も今年で設立7年目に当たります。幸い、会員諸先生方の御努力により、研究実績も会員数も着実な進展を見、昨年度会員数は御蔭様で5,000名を突破致しました。

会員規模からみて、高等学校関係研究会では全国一の大研究会となつております。その意味に於きましても、内外関係者より本会によせられる期待はまことに大きなものがあるかと存じ、事務局をあずかつているものとして、深い感銘とともに身のひきしまる思いであります。

然しながら、静かに過去を振り返りますとき、本会の趣旨が未だ十分に御理解いただけない先生方もおられまじよりし、研究実質等についても広く会員の総意を得ることについて未だしの感は、卒直に申し上げざるを得ない状況とも存じます。

又、今日当面する教育の問題の重大さ、深刻さを考えますとき、私共に課せられた責務は愈々大きく、1日として安閑とし得ない毎日であるろうと思ひます。

このような諸状勢のもと、皆様の御要請にこたえて、事務局機構も別記の通り再充実致し、本会が、会員諸氏にとつて、真に実のある研修の場となりますよう万全の対策を樹立したいものと念願しております。

各位の一層の御健闘を御期待申し上げ、本会に対する御支援、御協力を切に御願ひ申し上げます。

次に過日の役員会で決定されました事項についてその概要を御報告申し上げます。

## 昭和44年度第1回役員会

(日時) 昭和44年5月31日(土)

自午後1時30分

(場所) 札幌市北3条西3丁目

雪印パーラー4階会議室

### 1, 経過報告(43.4.1~44.3.31)

4.3.5.8 会員加入登録依頼状、加入者名簿用紙送付

5.1.5 地区支部長選出依頼状発送

教科部会長選出依頼状発送

6.8 第1回役員会

昭和43年度行事、予算案等

6.15 会報第9号発行

7.1 事務担当者会議

昭和43年度地区支部、教科部会事業計画他

7.10 会計検査院による監査(於道教育庁)

9.7 第2回役員会

昭和43年度事業計画、実行予算、会員名簿、会員加入促進

9.16 事業計画書提出依頼、及び各教科部会事務担当者会議開催案内状発送

9.28 教科部会事務担当者会議

第6回研究大会について

10.25 会員加入促進依頼状発送

11.18 第6回研究大会開催案内状、大会要項、参加証、申込書発送

11.20 北海道教育委員会公報に第6回研究大会要項掲載依頼

12.14 第6回研究大会運営会議

12.26 第6回研究大会開催案内状及び開催要項を全道高等学校に発送

4.4.1.9 第6回北海道高等学校教育研究大会(第1日目)全体集会

1.10 第6回北海道高等学校教育研究大会(第2日目)教科別集会

2.25 第3回役員会

3.15 研究紀要第6号、会報第10号を発行

### 2, 昭和43年度収支決算報告

(会計監査報告)

### 3, 昭和44年度役員改選

(別紙役員一覧表参照)

### 4, 昭和44年度事業計画

(1) 第7回研究大会の開催

(イ) 期日 昭和45年1月9日(金)、10日(土)



- (ロ) 場所 <第1日目>札幌市民会館大ホール、各会議室(将来厚生年金会館ホールが完成すれば利用したい)  
<第2日目>市内各高等学校を協力校とする。  
(尚、市民会館会議室、市内各銀行ホール、その他教科部会の要望により会場の確保に協力したい。)

(ハ) 全体研究テーマ

※本年度全体研究テーマ

「高等学校教育と学習指導の近代化について」

(ニ) 全体集会講師

原則として中央より2名(但し、うち1名については校長会推薦者を)尚、希望講師があれば申し出られたい。

○部会講師は部会ごとに決定されたい。

(ホ) 日程 (第1日)全体集会

(第2日)教科別集会

(ヘ) その他

大会参加料を新設し、会員(200円)、非会員(300円)の参加料を徴収する。

(2) 研究紀要第7号の発行

(イ) 規格 B5版 250頁程度

(ロ) 発刊予定 昭和45年2月28日

(ハ) 原稿締切 昭和44年11月10日

(厳守)

(ニ) 原稿内訳

◎ 教科は、一教科につき400字詰原稿用紙70枚以内、原稿の集約、審査等は各教科部会で行なう。

(申込先:各教科事務局)

◎ 教職一般は、一編につき400字詰原稿用紙30枚以内、原稿の集約、審査等は支部長及び本部役員で行なう。

(申込先:各支部事務局)

(備考)「紀要」は全一冊として発刊したい。

締切日は厳守し、以後の分は認めないことを確認されたい。原稿は必ず教科部会長を経由して本部へ提出し直送されることのないようお願いしたい。

◎ 研究調査は、紀要に調査報告を掲載す

る。

(3) 会報第11号、12号の発行

(イ) 回数 年2回(6月・3月)

(ロ) 内容

第11号 — ①全体研究テーマ、部会研究テーマ

②研究会の役員、教科・支部の中心校及び関係役員一覧

③研究発表、研究調査、紀要論文等について

④その他

第12号 — ①研究大会報告

②年度の反省

③その他

※部会会報は10月初旬、本部事務局で一括発送する。編集、印刷等は部会ごとをお願いする。

(4) 研究調査

(イ) 昭和43年度において完成したもの

◎ 札幌旭丘高等学校

「語学実験室の利用について」

◎ 小樽商業高等学校

「商業教育の多様化について」

(ロ) 昭和44年度に継続されるもの

◎ 羽幌高等学校 (関秀志)

「苫前郡の産業発達史について」

◎ 札幌南高等学校 (代表、辺見竜夫)

「世界各国の理科関係教科書の比較研究」

◎ 札幌旭丘高等学校 (高田裕幸)

「北海道の地殻構造について」

◎ 幕別高等学校 (島倉良夫)

「自動電装品の改良について」

本年度新規希望につきましては二または三テーマ採用される予定ですので、教科については教科部会、教職については各地区支部でとりまとめ、部会長・支部長を経由して(紀要の原稿と同じ取扱い)本部事務局まで御連絡下さい。尚、研究調査の期間は一か年または二か年継続し、一か年完成には1万円、二か年継続には各年度5千円の調査費が配当されます。研究調査の報告は紀要に掲載します。報告の内容は400字詰原稿用紙20枚程度に要約し、教科または



支部を通して11月10日までに本部へ提出下さい。ところで、希望申込期日(9月20日)現在で申込みテーマが予定より多い場合は、教科・支部・本部の協議により調整することになります。

- (5) 各地区支部、各教科部会事業計画  
(別紙参照)提出期限9月20日までに

## 5, 昭和44年度予算案

会員数5,000名、会費250円、補助金1,000,000円

(参加料400,000円<200円×2,000人>—本年度より新設)

支出基準—昨年度に準ずるが、研究大会費、全体集会・部会の講師費用、研究紀要費等は増額しました。尚、特別会計中(広告料及び非会員の大会参加料)に事務手当を年額30,000円程度支出承認されました。

## 6, その他

- (イ) 年間予定表(別紙参照)  
(ロ) 本部事務局構成について(別紙参照)  
(ハ) 会員加入申込と名簿提出について

会員資格は一年ごとですので、加入申込者は250円(年間会費)をそえて当該校長に申込み下さい。(当該校長は学校ごと会員名簿をまとめ支部に提出)

本部直接受付は学校以外のもののみと致します。

会員には次の特典がございます。(1)研究紀要の無料配付 (2)研究大会参加費などの割引(会員外参加料300円のが会員は200円など)

(ニ) 会員会費の納入方法—支部ごとに北海道銀行札幌旭が丘支店払込

(ホ) 地区支部組織強化の方法について

(ヘ) その他

### ◎ 「研究紀要」の別刷の件について

別刷については、原稿提出者(執筆者)全員に対し各50部、事務局の責任で印刷し、該当者に寄贈することになりました。尚、これ以上別刷の部数が必要でしたら、印刷会

社へ執筆者が直接発注し、この件については本部事務局は一切タッチしないこととなりましたので御了承下さい。

(本年の反省による)

### ◎ 保健体育部会の構成について

保健体育部会には新設された衛生看護学科もありますので、保体部会には保体分科会と衛生看護分科会の二分科会を設定することになりました。

## 昭和43年度 会員登録数

(地区別) (教科別)

地区支部	会員数	教科部会	会員数
札幌	1,046	国語	548
函館	387	社会	679
後志	239	数学	522
小樽	166	理科	724
南空知	410	保・体	463
北空知	473	芸術	130
旭川	465	英語	539
留萌	153	家庭	300
名寄	376	農業	366
北見	280	工業	368
釧根	344	商業	379
十勝	306	水産	72
苫小牧	289	合計	5,090
室蘭	156		
合計	5,090		





年 間 予 定 表

昭和 4 4 年度

北海道高等学校教育研究会

月	日	本 部	備 考	地 区 支 部	教 科 部 会
4	3 8	昭和 4 3 年度事業実績報告書提出 昭和 4 4 年度事業計画書提出			
5	7 27 31	昭和 4 4 年度会員加入登録依頼 本部事務局会議 第 1 回役員会	第 1 回役員会議案書作成 第 1 回役員会	第 1 回役員会	第 1 回役員会
6	7 16 28	会報第 1 1 号発行  地区支部・教科部会事務担当会議	全体研究テーマ 部会研究 研究テーマ 紀要論文 研究発表 研究調査 事 務局一覧 役員名簿一覧 支部だより 事業計画予算等について	役員名簿提出期限  事務担当者会議	役員名簿提出期限  事務担当者会議
7	15			会員名簿支部規約 提出期限	部会規約提出期限
8	25 27	本部事務局会議 第 2 回役員会	第 2 回役員会議案書作成 事業計画 実行予算 会員加入について	第 2 回役員会	第 2 回役員会
9	20 27	教科部会事務担当者会議	第 7 回研究大会運営につ いて	事業計画書提出	事業計画書提出 事務担当者会議
10					
11	5 10	研究紀要原稿締切	第 7 回研究大会講師・役 員委嘱状発送 後援依頼 状 公報掲載依頼 大会要項発送	研究紀要原稿締切	教科別講師・役員 ・係委嘱状発送 研究紀要原稿締切
12	10 13	研究大会参加申込締切 第 7 回研究大会運営会議		研究大会参加申込 締切	研究大会参加申込 締切
1	9 10	第 7 回研究大会全体集会 第 7 回研究大会教科別集会		第 7 回研究大会	第 7 回研究大会
2	12 14 28	本部事務局会議 第 3 回役員会 研究紀要第 7 号発刊 会報第 1 2 号発行	第 3 回役員会議案書作成  第 7 回研究大会報告	第 3 回役員会	第 3 回役員会
3					



## 高教研、地区支部・教科部会事務局所在地、事務担当者名簿

### (地区支部)

地区支部	事務局校	住 所 (電話)	事務担当者
札幌	札幌北高校	札幌市北25条西11丁目 (73) 3191	藤田保彦
函館	函館北高校	函館市白吉町51 (51) 4476	井上誠也
後志	倶知安高校	虻田郡倶知安町北7条西2丁目 (2) 1085	岡田貞幸
小樽	小樽桜陽高校	小樽市長橋3丁目19番1号 (3) 0671	松浦宏一
南空知	栗山高校	夕張郡栗山町字栗山457 (2) 1343	角野毅
北空知	芦別商業高校	芦別市上芦別町105 (2) 7521	五十嵐正義
旭川	旭川北高校	旭川市花咲町3丁目 (51) 4620	伊藤藤進 遠藤藤隆 五十嵐正
留萌	羽幌高校	苫前郡羽幌町南町18 (2) 1050	石田一雄 日影憲吾
名寄	名寄高校	名寄市幌西5条北5丁目 Tel 3066	秋山茂夫 高岡信侑
北見	遠軽高校	紋別郡遠軽町南町1丁目 Tel 2676	十河巖
釧根	釧路工業高校	釧路市鶴ヶ岱35 (4) 1285	吉田保綱
十勝	帯広南商業高校	帯広市西17条南5丁目 (4) 5852	吉田実
苫小牧	苫小牧西高校	苫小牧市西町15 (4) 2977	多田勝
室蘭	室蘭清水丘高校	室蘭市増市町2丁目 (2) 2645	今井敏夫

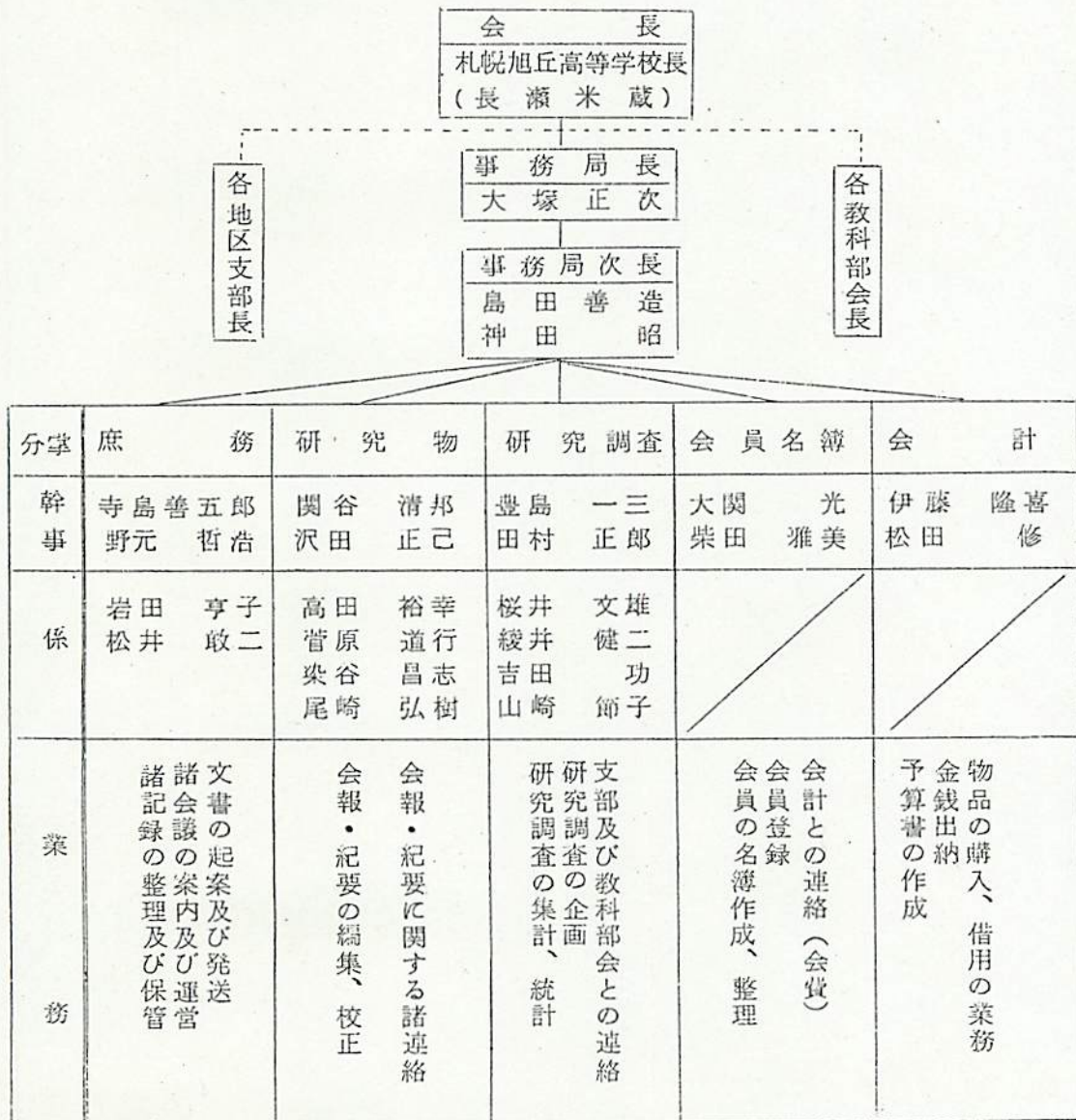
### (教科部会)

教科部会	事務局校	住 所 (電話)	事務担当者
国語	札幌旭丘高校	札幌市伏見町1872の4 (56) 1221	高橋克美
社会	札幌開成高校	札幌市元町170 (71) 8171	前田武男 川島正彬
数学	札幌北高校	札幌市北25条西11丁目 (73) 3191	藤田保彦
理科	札幌南高校	札幌市南18条西6丁目 (52) 2311	辺見竜夫
保・体	札幌旭丘高校	札幌市伏見町1872の4 (56) 1221	在間弘
芸術	札幌旭丘高校	" "	滝沢光郎



英 語	札幌旭丘高校	札幌市伏見町 1872の4 (56) 1221	寺 島 善五郎 野 元 哲 浩
家 庭	札幌西高校	札幌市琴似町宮の森 800 (61) 4402	篠 田 ツ ネ 藤 森 敏 子
農 業	酪農学園機農高校	江別市宇西野幌 582 江別 2541	五十嵐 令 七
工 業	札幌琴似工業高校	札幌市琴似町笥寒 1020 (62) 3251	大 村 正 道
商 業	小樽商業高校	小樽市緑町 3丁目 4号 1番地 (2) 0088	境 富 男
水 産	小樽水産高校	小樽市若竹町 9番 1号 (3) 0670	野 村 雅 夫

昭和44年度 北海道高等学校教育研究会本部事務局構成



## 昭和44年度 北海道高等学校教育研究会役員

会 長 長瀬 米蔵(札旭丘)  
 副会長 村上 正雄(岩 東) 小黒 淳達(札 南) 川井 信雄(札 工)  
 監 事 横川 義雄(旭 商) 山崎 英哉(由 仁) 北条 忠(釧江南)  
 願 問 梶浦 善次(北星大)

### <地区支部長>

札 幌 上 野 秋 造(札 北)  
 函 館 小 島 朝 憲(函 北)  
 後 志 内 田 諒(倶知安)  
 小 樽 山 本 彦 一(樽桜陽)  
 南空知 西 山 勝(栗 山)  
 北空知 田 村 重 見(芦別商)  
 旭 川 深 田 賢 正(旭 北)  
 留 萌 虎 谷 勇 作(羽 幌)  
 名 寄 神 柁之助(名 寄)  
 北 見 吉 本 昇(遠 軽)  
 釧 根 佐 藤 健 作(釧路工)  
 十 勝 山 口 賢 三(帯南商)  
 苫小牧 松 下 源太郎(苫 西)  
 室 蘭 川 田 正 徳(室清水)

### <教科部会長>

国 語 松 本 利 一(樽潮陵)  
 社 会 磯 貝 芳 司(札開成)  
 数 学 上 野 秋 造(札 北)  
 理 科 牧 野 徹 夫(札 南)  
 保・体 川 田 正 徳(室清水)  
 芸 術 上 田 由 宗(札 西)  
 英 語 長 瀬 米 蔵(札旭丘)  
 家 庭 直 木 通(札 西)  
 農 業 黒 沢 力太郎(酪 農)  
 工 業 寺 岡 二 郎(札琴工)  
 商 業 友 田 義 潔(樽 商)  
 水 産 飯 田 毅(樽 水)

### ○ 部会研究テーマ

国 語 現代国語における文学教材の取り扱いについて  
 社 会 教材教具の効果的取扱い方について「单元主題の効果的指導について」  
 数 学 数学教育の現代化と新教育課程について  
 理 科 これからの理科教育はどうあるべきか  
 「1.新教育課程に何を求めるべきか 2.現状の教育の問題点をふまえて」  
 保・体 保健体育の効果的学習指導について  
 芸 術 芸術教育の創造性の開発について  
 英 語 英語学習における効果的動機づけ「英作・文法を中心として」  
 家 庭 家庭科教育に於ける効果的指導法  
 農 業 農業教育近代化に伴なり学習指導上の諸問題に就いて  
 工 業 工業教育における教育課程の近代化  
 商 業 新しい商業教育実現の為の教育課程編成上の具体的問題点について  
 水 産 効果的学習指導法の実践的研究「視聴覚教具教材の利用方法について」